



資料

第5回 エリアプラットフォーム会議

1. 社会実験結果と効果検証から見えてきたこと

- (1)第4回エリプラ会議のグループ討議結果／ディレクターMTGでの意見
- (2)社会実験の効果・課題

2. 次年度以降の取組・活動について

- (1)次年度の取組・活動について
- (2)エリアプラットフォームの組織体制について

3. グループ討議

～ エリプラとして取り組みたい活動について ～

4. 今後のスケジュール等について

1. 社会実験結果と効果検証から見えてきたこと



(1) 第4回エリプラ会議のグループ討議結果／ディレクターMTGでの意見

○滞在空間について

- ◎図面で見るよりも広く、多様な使い方が出来た
- ◎パーゴラはステージに活用など汎用性があり良かった
- ◎アッシュ公開空地との連携（新しい使い方出来て〇、更なる活用が課題）
- ◎実験終了後も滞在できる空間として認知され、滞在時間が伸びている
- ◎日陰がなかった
- ◎既存イベントとの共存 ・・・など

今後に向けて

- ◎エリア情報発信強化（特に1条は買物公園のゲート空間）
- ◎空間の質向上（什器類のデザイン・素材感・種類）
- ◎交流機能の強化
- ◎滞在空間設置期間の延長 ・・・など

○バスキング・コンテンツについて

- ◎バスキングエリアの設定位置（滞在空間との融合）
- ◎イベント告知・周知をさらに効果的に行う必要あり
- ◎朝ごはん企画は協力事業者から好評。次年度以降の継続にも前向き
・・・など

今後に向けて

- ◎出展種類を決めて募集（今日はハンドメイドの日 など）
- ◎協賛を得られるコンテンツ（スポンサー獲得）
・・・など

1. 社会実験結果と効果検証から見えてきたこと



(1) 第4回エリプラ会議のグループ討議結果／ディレクターMTGでの意見

○エリプラ組織・進め方について

- ◎ 「ゆるくつながる、情報共有の場」から「目的感をもって活動する組織（活動量を増やす）」へ
- ◎ 自主財源の確保 “お金を稼げる組織に”→専属スタッフの雇用可
- ◎ 学生や若者が関わるフィールドを作っていく取組が必要
- ◎ 「（誰かの）やりたいこと」をいかに吸い上げられる組織体制の検討が重要
- ◎ 春からすぐ活動できる積雪寒冷地独自の活動サイクルを立案・実行
- ◎ エリア内の組織との整合性を図る
- ・・・など

今後に向けて

- ◎ アセットの占用管理（例：バスキングエリアの占用料と備品のレンタル料など）
- ◎ 類似組織再編による運営費効率化に伴う財源捻出など
- ◎ ふるさと納税、広告収入確保
- ◎ 旭川市立大学新学部「地域創造学部」、旭川ウェルビーイング・コンソーシアムなど「学」との連携（担い手の確保）
- ◎ 自主的な取組の着手（月1回でもイベントを継続的に実施）
- ◎ 実行性がありつつ幅広い意見を吸収できる柔軟な体制が必要ではないか
　　（エリプラ（リーダー↔メンバー）↔オープンなコミュニティ）
- ・・・など

(2)社会実験の効果・課題まとめ

○社会実験の実施目的

『未来ビジョン（実現したいエリア全体イメージ※）』の実現に向けた最初の取組として、**買物公園エリアへの来街を促すとともに、人の流れを買物公園エリア全体に広げること**を目的に、「居心地の良い滞在空間の設置」や「移動を支援するモビリティの活用」などを実施し、その**効果や課題などの把握**を行う。

※実現したいエリア全体のイメージ

- 01 素敵な自分でいられるエリア
- 02 行きたい・歩きたくなるエリア
- 03 やりたいが自由に実現できるエリア

○主な実施内容

滞在空間の設置

バスキングエリアの設定

電動モビリティの活用

○効果検証結果を基に評価

実施内容、社会実験の全体評価、運営体制を踏まえて、①～⑤の観点から効果・課題を整理する。

- ① 来街機会の創出
- ② 滞在時間の増加
- ③ 簡易な申請での公共空間の活用
- ④ 回遊性の向上（電動モビリティの運行）
- ⑤ 持続可能な体制構築

(2)社会実験の効果・課題まとめ ①来街機会の創出

◆評価

- ・実験を目的に来訪していない方が多い中（認知度3割），来訪者や沿道店舗事業者より，実験に対する取組満足度が約8～9割であり，「滞在空間の設置」「バスキングエリアの設置」など，今後も継続を望む声が多く寄せられた
- ・社会実験後半になるにつれ，リピートする来街者も見受けられ，日常化の実現に近づいた

◆課題/見えてきたこと

ターゲットの明確化・情報発信強化・活動拠点としての広域性の拡大

- ・社会実験の認知度は約3割にとどまる
- ・実験効果は一部の沿道店舗（2割程度）で見られたが，買物公園全体には広がっていない
- ・周辺事業者の関心を高めていくためには，沿道店舗を利用する客層をターゲットとした来訪機会の創出が必要
- ・ゾーンIは拠点的な機能もあることから，他のゾーンの情報発信を図っていくことも必要
- ・現在は買物公園エリアの関係者が中心に活動しているが，将来的には道北地域の活動拠点として人々が集まるエリアへ

(2)社会実験の効果・課題まとめ ②滞在時間の増加

◆評価

- 普段は「来街されない方」の滞在や、「通り過ぎるだけの方」などの買物公園エリアでの滞在時間が増加
- 普段と比較して「30分以上」の滞在が約1割増加していた
- 休日では1条から5条まで滞在者が増加し、旭川駅前に滞在する来街者を4条前後まで誘導できた

◆課題 /見えてきたこと

滞在空間のグレードアップ、常設化の検討・エリア周辺（沿道店舗）などへの波及

- 買物公園に滞在すると、（例えば）約束していない友人に会うことができる場所になるなど、滞在空間に交流促進の機能などを付加することにより、より魅力的な空間へ
- バスキングと滞在空間の関係性を強めるための配置計画を検討する必要がある
- 夏場は暑く、日中は滞在空間が炎天下となる時間もあり、居心地よい空間にするには、日影を作る工夫も必要。特に、Ashアトリウムなどの公開空地等との連動を図り、より有効的に活用する必要がある
- 継続的に運営できる什器数・設置方法（種類）の検討が必要である
- 学生や若者世代のニーズ把握（駅・駅前イオンなど：勉強している学生が多く滞在 ⇔ 居場所不足？）
- 滞在空間の常設化により、利活用を促進し「素敵なエリア」へ（エリア価値の向上）

(2)社会実験の効果・課題まとめ ③簡易な申請での公共空間の活用

◆評価

- ・バスキングエリアの設定では総申込応募者数 57 件・総出展回数 123 件（日平均 4.4 件）と一定の 空間活用ニーズを確認できた
- ・出展希望エリアはどのエリアも偏りがなく、利活用事業者が各エリアの特性に応じて活動できる場となっていた
- ・出展者同士のコラボや沿道店舗事業者同士のコラボなど、事業者間の連携につながっていた
- ・バスキング出店を通じて、沿道店舗事業者にとっての新規顧客獲得の機会に

◆課題 /見えてきたこと

バスキングエリアの実装化（ルールづくり&ガイドラインでの運用）

- ・ワンストップで利活用できる仕組みを実装化していくことで、買物公園空間利活用のハードルを下げ、常に何かが行われている魅力的な空間となり、にぎわいなどの創出が図られることが期待される
- ・出展店舗の利用者が少なかった事業者もみられ、バスキングエリアの持続的な運用が求められる
- ・出展料徴収意向については営利目的・非営利目的共に約 1,000 円程度との回答が多数あり、実装化に向けて利用料徴収について検討が必要
- ・備品レンタル（テント・什器類など）等の仕組みについても検討が必要
- ・ニーズやエリアの特性に応じた柔軟な仕組み・出店ルールの運用が求められる

(2)社会実験の効果・課題まとめ

④回遊性の向上（電動モビリティ）

◆評価

- ・電動モビリティは、いずれも利用者から高く評価された
- ・電動車いす（WHILL）・電動キックボードは、利用料金を支払っても乗りたいという回答も多く、交通ルールを周知し、安全面に配慮して利用してもらうことで、街への来訪のきっかけや街中で楽しく過ごしてもらう有用なツールになると推測
- ・様々な来街者が電動カートを利用し、多くの方は移動の利便性向上を認識していた。また、『より遠くの目的地へ移動できた』といった回答や、遠くの区間の利用（駅前 ⇄ 4条通以北）が多かったことから、遠くへの移動を促す効果を確認できた
- ・電動カート運行の受容性は、利用者目線では満足度は高く、利用していない来街者も好意的な意見が多く、買物公園内の通行も許容できる回答が多かった

◆課題/見えてきたこと

持続可能な運行体制の構築、歩行者との共存

- ・電動カートを継続的に運行していくには、運賃だけではランニングコストも賄えないことが試算された
- ・将来的に社会実装を考えていくには、運賃だけに頼らない運営のスキーム構築が必要（電動カートの有用性を周知し、スポンサーを増やす）
- ・技術は日々進展しており、より低速な電動モビリティの活用や、自動運転化による新たな体験価値の提供や運用コスト低減により社会実装が近づけられると期待される

(2)社会実験の効果・課題まとめ

⑤持続可能な体制構築

◆評価

- 社会実験の実施にあたっては、「プロジェクトチーム制（ディレクター↔各メンバー）」を導入し、各ゾーンにディレクター（リーダー）を配置することで、滞在空間の検討やコンテンツ等の企画・実施を円滑に推進することができた。
- ディレクターがメンバーの意見を吸い上げ、ディレクター会議で議論・意思決定することで、準備期間が限られていた中、円滑に社会実験を開催することができた。

◆課題／見えてきたこと

- 社会実験に対する来訪者の評価は高いが、取組の認知度や組織認知度は低く、周知や広報に課題があった
- 社会実験のような取組を継続することで、エリプラの認知度を高め、地域から信頼してもらい、沿道店舗や周辺企業に協力して貰えるようになり、未来ビジョンを実現していく組織へ
- エリアプラットフォームとして活動を推進していくには、実験時のようにディレクターによる意思決定や円滑な取組推進にあたっての組織体制構築が必要（メンバーの意見をディレクターが吸い上げ、活動しやすい組織へ）
- エリアプラットフォームの外にオープンな場を設けるなど、一緒に活動してくれる（賛同してくれる）仲間を増やしていく必要がある（関心層が関わる場があると良い）
- 社会実験以外の活動（取組）を検討・実施し、エリプラの実行力を高め、未来ビジョンを実現していく
- 定期的なコンテンツ（イベント）を実施するなど、継続的に取組実施が必要

2. 次年度以降の取組・活動について



(1) 次年度の取組・活動について

○エリプラ会議の開催

メンバーの情報共有、活動内容についての意見交換・調整の場

○まちづくりスクールの開催

昨年のまちづくりスクールのように、まちづくりを実践している方を招いて、事例や活動手法などを学び、自主的なエリプラの活動や今後の活動につなげていく場

加えて、オープンに開催することにより、エリプラの活動のPR、新たなまちづくりの担い手（興味がある人）を発掘し、活動の輪（フィールド）を広げるねらい

○社会実験の実施

昨年の社会実験「まちにち計画」の効果・課題を踏まえ実施内容をブラッシュアップし、認知度・魅力度を向上させ、さらなる来街機会の創出や滞在・交流の増、エリア価値向上を目指し、実装化へ向けて、社会実験「（仮称）まちにち計画'25」を実施していく

→ 詳細は次ページ

2. 次年度以降の取組・活動について



(1) 次年度の取組・活動について

○社会実験の実施

【検討している実験内容1/2】

I. 滞在空間の設置（4箇所）

⇒R6製作什器を活用し、より効果的な空間に再構築する。（4つのゾーンの配置間隔についても全体的なバランスを考え再検討）

足りない・追加したい機能は、一部新たに製作・手配する

II. 滞在空間に+aの機能追加

⇒R6実験で滞在や活動の変化を確認。そこから一步前進し、交流機能を追加することにより様々な交流を促し、新しい“何か”が生まれる空間「まちなかサードプレイス化※」を目指す（例：約束していない友人・知人と会える場所）

また、エリア情報などを発信する機能を追加することにより、他ゾーンへの移動（回遊）を促し、賑わいを沿道店舗等に波及させ、エリア全体の価値向上を目指す

※「サードプレイス」・・・家庭、学校（職場）以外の第三の居場所

2. 次年度以降の取組・活動について



(1) 次年度の取組・活動について

○社会実験の実施

【検討している取組内容2/2】

III. バスキングエリアの運用

⇒R6社会実験は想定以上の活用件数あり。公共空間のワンストップ申請の制度化に向け各種利用ルールを検討し、試験運用する

（出展業種や出展場所などエリア毎のルール、利用料金の徴収、音出しなど）

IV. 滞在空間の実装化に向けた既存イベントとの共存

⇒買物公園で行われる定例的なイベントとの親和性や共存性を確認するために、社会実験実施期間を延長する（食べマルシェ期間中も設置を想定）

V. エリプラ自主企画コンテンツの実施

⇒エリプラ自走化（財源確保など）に繋がる継続的なコンテンツの検討・実施

VI. 沿道の空店舗・空間の有効活用

⇒エリア活動の拠点となり得る公共的な空間の創出やA.s.hアトリウム空間などの公開空地等の活用（屋根付きで日除け、雨除け、冬期の活動場所、溜まり場）

2. 次年度以降の取組・活動について



(2) エリアプラットフォームの組織体制について

R6.2 現在の組織体制：フラットな組織（情報共有する場）が発足

R6.4 社会実験に向けて「プロジェクトチーム制」にて活動（円滑に活動できた）
・チーム制による、円滑な議論・意見集約
・リーダー（ディレクター）制による、円滑な意思決定

R7.2 現在の活動状況：エリプラ活動が生まれつつある（情報共有以外の活動も）

活動が生まれることによる組織体制の問題（課題）

- ・意思決定のルールがない
- ・意思決定者（代表・リーダー等）の不在
- ・おサイフ（口座）がない（現在は全て市の予算・ボランティアでの活動）

R7.4 組織体制のアップデートにより、エリプラの取組を推進し実行力ある組織へ

組織体制のアップデート（規約の改定等）

- ・意思決定等のルール化（リーダー・チーム制などの明文化）
- ・おサイフ（口座）取得についての検討（例：寄付などを受け入れられる体制構築）
- ・オープンな場の創出の検討（将来のエリプラメンバー・まちづくりの担い手の発掘）

※未来ビジョンの推進体制イメージのように徐々に組織をアップデートしていく

2. 次年度以降の取組・活動について



(2) エリアプラットフォームの組織体制について

どのような組織体制がこれからの買物公園エリアプラットフォームには望ましいのか？

○まちづくり組織比較表

	【参考】アーバンデザインセンター型	【参考】地域主体エリアマネジメント型	現在のエリプラ体制	新年度目指すエリプラ体制
主な目的	都市のデザインや計画に関する専門的な知識などを活用し、持続可能で魅力的な都市空間を創出することなど	地域の課題解決や資源の最適化をすることで、経済的・社会的な活性化を目指し、地域全体のマネジメントすること	官民一体となり、未来ビジョンの実現に向けた取組を進め、エリアの歴史や特色などを活かし、更なる魅力や価値を創出すること	変更なし
主な活動	都市の景観や公共空間の質を向上させるための提案や支援など	地域内の資源や特性を活かした事業やイベントの企画・運営や情報発信など	・情報共有 ・社会実験	・情報共有 ・エリプラ活動（エリア価値向上に向けた自主的な活動） ・社会実験 リーダー（民間+行政） 行政+民間（寄付金・協賛金）
主な主体	行政や大学等	商店街・地元企業等	扁平な組織	
主な財源	行政（市等の支援+国等の補助金）	民間（企業の負担金・協賛金等）	行政（市の予算）	



→買物公園エリアに相応しい体制を検討しながら、活動に合わせてアップデートしていく

3. グループ討議



～エリプラとして取り組みたい活動について～

- 社会実験「まちにち計画」の効果や課題、前回エリプラ会議でのグループ討議結果等を踏まえ、
今後エリプラとして継続的に取り組むべき活動を検討することが必要
- そこで、「今後の活動内容」や「活動の進め方」について、グループ討議を行います
- 討議後には、各班から発表を行い、全体で共有します

※グループ討議では、出来る範囲で以下の条件も考慮して意見交換を実施してください

- 昨年実施した社会実験と同様に、買物公園エリアの各ゾーンを活用することも可
- 買物公園エリアの価値や魅力向上につながる取組であること
- 継続的に取組めること（活動財源のアイデアも）
- 学生や若者、周辺事業者、クリエイターなどが関われるフィールドを作っていく取組であること

＜参考：取組例（昨年度の会議でのご意見や社会実験での実施内容等を踏まえて）＞

- ・空き店舗ツアー
- ・朝力フェ
- ・サキソフォン像をミュージシャンの聖地に（定期的な音楽イベント）
- ・買物公園でのピクニックイベント
- ・空地・空き店舗の活用

3. グループ討議



～エリプラとして取り組みたい活動について～

○グループ討議の流れ

19:10～19:30

テーマ1：エリプラ組織（活動）の周知やエリア
価値向上につながる活動について

活動目的・内容（プロジェクト）
活動の実施時期、実施体制、
協力事業者（団体）など



19:30～19:45

テーマ2：自走化に向けた収益活動について

活動目的・内容（プロジェクト）
活動の実施時期、実施体制、
協力事業者（団体）など



19:45～20:00

各班から発表・全体での意見交換

4. 今後のスケジュール等について



まちにち計画アーカイブ・フォーラムについて

●目的

- ・2024年8月11日から9月7日まで開催した社会実験「まちにち計画」の開催結果や取組を通じて見えた未来ビジョン実現のための“ヒント（視点）”や“今後の取組”を市民等にわかりやすく周知する

●開催日時

- ・2月11日（火・祝）13:30～15:30

●開催場所

- ・旭川デザインギャラリー
〒070-0030 旭川市宮下通11丁目 蔵団夢
(「A.s.h」で特別企画「まちにち計画 #fyp」を同時開催！)



●開催プログラム

- 買物公園エリアプラットフォーム・買物公園エリア未来ビジョンについて
- 社会実験「まちにち計画」で見えたこと
- トークセッション「社会実験から日常“まちにち化”へ」
- 会場参加者とのクロストーク
- 今後の取組について

4. 今後のスケジュール等について



まちにち計画アーカイブブックの作成

● 概要

- ・2024年8月11日から9月7日まで開催した社会実験「まちにち計画」とはどんな活動だったのか?、その開催結果や取組を通じて見えた未来ビジョン実現のための“ヒント（視点）”や“今後の取組”をアーカイブとしてまとめた冊子



4. 今後のスケジュール等について

社会実験「（仮称）まちにち計画'25」までの主なスケジュール（案）



- ・ R7.2.10 令和6年度第5回エリプラ会議
- ・ R7.2.11 まちにち計画アーカイブフォーラム
(同日開催：特別企画 まちにち計画 # f y p)
- ・ R7.3末 社会実験受託事業者決定（予定）
- ・ R7.4～ 新体制スタート
- ・ R7.4末 令和7年度第1回エリプラ会議（予定）

- ・ R7.7上旬 令和7年度第2回エリプラ会議（予定）

- ・ R7.8～ 社会実験「（仮称）まちにち計画'25」スタート！！